

1月号では2年生の授業を紹介します。

今月17日、阪神・淡路大震災から20年を迎えました。多くのテレビや新聞では防災について取り上げられていました。この道徳だよりを、改めて家族で災害時の対応について確認するきっかけにいただけたら幸いです。



【資料】「語り継がれる教訓」(彩の国の道徳『心の絆』より)

【概要】 2011年9月30日の読売新聞にも取り上げられた話。

明治・大正・昭和のそれぞれの時代ごとに大きな地震による津波に遭っている陸前高田市。この地域では、津波による避難訓練を必ず行い、『地震が来たら、高台に逃げろ!』という言葉が代々語り継がれている。東日本大震災当時、岩手県立高田高校2年だった熊野さんは大きな揺れに大変なことになると感じて高台に逃げるよう知らせるために商店街を走り回る。やがて、津波が迫り、高台に逃げるには間に合わないと思って入った建物で屋根裏部屋に移ろうとしたとき、濁流が飛び込んでくる。多くの人々が濁流にのみ込まれていく中、濁流に吸い込まれそうな状況から辛うじて脱出した熊野さんは寒さの中で仲間と6人で一夜を過ごす。翌朝、自衛隊のヘリコプターに救助され、地面に足を付け、生きていることを実感する。避難所に行くと、「あなたが『早く、高台に逃げて!』と知らせてお陰で、今の私がある」と感謝される。父親が迎えに来て緊張から解放された熊野さん。しかし、時を経て、地震の時に心配してメールをくれた親友が亡くなったことを知り、「あのときメールを返していたら助かっていたのでは…」とやりきれない思いになる。そして、代々語り継がれてきた教訓の重みを感じ、語り継いでいくことを心に誓うのである。

【わらい】

震災の経験を通して生命の尊さを感じ取りながら、今、生きているこの時間や自他の生命を大切に生きていこうとする心情を育てる。【生命の尊重】

《この授業から考える”命”…》

- 命は一つしかないから大切にしなければいけない。一言で助けることができるのも「命」、一秒でなくなってしまうのも「命」だと思う。どんなときでも命を守ることが最優先だと思う。命があることで動けるし、笑えるし、食べられる。様々なことから命が生まれていると思う。
- 命は、生きていることだと思う。時は常に流れているけど、いつも通りの日もあれば、大震災のように自然災害に追われる日もあるだろう。しかし、その日乗り越えれば、改めて自分が生きていることが実感できるから、命は今を生きていることだと思う。
- 人間が事故、災害等で失ってしまい、何が良くて、何がいけないことなのかを命を持って教えてくれるものであり、自分達や後の世代の人間に、どんなことをすれば良いのかを伝えていくか

け橋。

- 命はぎりぎりのところで助かったり、あと少しで助かるところで死んでしまったりするもので、一度死んでしまったら終わりなので、大切にすべきだと思います。
- 必然的に消えてしまうもの。しかし、消える前にたくさんことができるもの。たくさんの感情をくれるもの。たくさん表情をくれるもの。他人が傷つけることは許されないもの。自分にとって大切なもの。
- いつ、どこで、何が起こるのか分からないので大切にしなきゃいけない。亡くなった人の分まできちんと生きないといけない。命は1つしかないから大事にしなきゃいけない。

《授業の感想・・・》

- 今日の授業を受けてみて、津波はすごい怖いんだと改めてわかりました。陸前高田市に住んでいる熊野さんの話を聞いてみて、もし、あのとき自分が岩手県とかに住んでいたら、「高台に逃げろ」とか言えなかったと思います。もし、また大きな災害に起きたら、声を掛け合うことが大切だと思いました。
- 今回の授業で、小学校4年生の時の記憶を思い出しました。今でもトラウマの映像で、人の死体の画像をこの時初めて見ました。それを思い出して、今、とても気分が悪いです。今回の授業を通して、僕はもっと生きること一生懸命になろうと思いました。そのために、このようなことが起きた時の対処法を身につけていけたらいいなと思います。そして、自然災害は防ぐことができないので、もし起きたら、周りの状況や大人の人の言葉を聞いて、行動したいです。どんなことが起きても、自分に余裕を持って行動したいです。そして、周りの人と協力したいです。
- 小学校4年生の時のことだったので、深く考えることができなかったけれど、今になって話を聞いたり、DVD を見たりして考えたり、その時のことを思い出すことができました。私たちは津波もなく、被害も少なかったけれど、岩手県の人などは本当につらく、怖い思いしたのだと思います。このような経験を通して、避難訓練が大切なことだと思いました。そして、私たちが今、生活できていることは幸せなことなんだなと実感しました。
- 海は近い町だと地震が起きてから悩まないですぐに高台に逃げないといけないのがビデオなどを見て改めてわかりました。地震が起きた時は、余震や津波で家族の人などと連絡が取れなくてすごく焦ると思うけど、その時に落ち着いて判断して行動することがとても大事だと思いました。熊野さんは一回高台に逃げたけど、また戻ったのは少しでも多くの人を助けたい、または、昔から地震が来たら高台に逃げろというのが語り継がれてきたからだと思います。救助されるまですごく不安だったと思います。

切り取り線

※「道徳だより」や道徳授業へのご意見・ご感想などをお聞かせください。

【提出は担任にお願いします。】

【2月の授業予定…】

●第1学年

資料名	ねらい
吾一と京造	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。
つかの間の出来事	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見いだすように努める。
自然な笑顔のままで	勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。
玄さん	学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。

●第2学年

資料名	ねらい
母は優し そしてー	父母、祖父母に敬愛を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする。
ゴミ箱の中の町	一人ひとりが社会の一員として公德心や社会連帯について自覚し、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。
金閣再建 黄金天井に臨む	日本人としての自覚をもって国を愛し、優れた伝統や文化を継承しようとする心情を育てる。

●第3学年

資料名	ねらい
命の力のおすそわけ	多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝、それに応えようとする態度を育てる。
二通の手紙	法や決まりの大切さを理解して遵守し、秩序と規律ある社会を実現しようとする態度を育てる。
友情切符	友情は相互の信頼関係や敬愛によって成り立っていることを理解し、互いに励まし合い忠告し合えることによってさらに深い友情を育む。